

ニュースレター第40号をお届けいたします。今号は樋野先生とスタッフの青木が担当します。

継続の大切さ ～ 存在意義を実感する ～

樋野興夫 (順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長)



2026年4月4日 147回【お茶の水メディカル・カフェ in お茶の水クリスチャン・センター (OCC)】に赴いた。5組(6人)の個人面談の機会も与えられた。初めての参加者、また埼玉県、神奈川県でも『がん哲学外来・カフェ』を立ち上げたい方も出席されていた。大変充実した貴重な時であった。改めて、『お茶の水 (OCC) メディカル・カフェ』の存在意義を実感する。継続の大切さを痛感する。

2011年3月11日14時46分18秒に最大震度7 マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生した(東日本大震災)。『お茶の水 がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC』は、当時 OCC 副理事長であった榎原寛(1941-2020)先生が、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に始められた。

新渡戸稲造(1862-1933)は、日本屈指の国際人として活躍した。私は、【新渡戸稲造が尊敬するアメリカ合衆国の第16代大統領エイブラハム・リンカーン (Abraham Lincoln エイブラハム・リンカーン:1809-1865)の大統領就任演説『何人に対しても 悪意を いたかず、すべての人に 慈愛の心をもって』(With malice toward none, With charity for all)』&『リンカーンは、ケンタッキー州の貧しい農家に生まれ、幼少期は厳しい環境で育ちました。父トーマスと継母サラの下、リンカーンは自学自習に励み、読書を通じて知識を深めていきました。』&『親切とは 行動すること』(新渡戸稲造)】と若き日に教わったものである。

【『練られた品性と 綽々たる余裕』=『良き贈り物』】が、『お茶の水メディカル・カフェ in OCCのスタッフ』の心得・実践でもある。ただただ感謝である。

